

郵便切手のおまけ。

或る田舎者が、郵便局へ来て、三錢の郵便切手が高いといふのでしきりに二錢五厘に負けるといつて値切つて仕様がなないので、局員殆ど持て餘して居つたが「これは、此價がチャンと定つて居て錢では引くことが出来ぬのだが、そゝねぎるなら仕方がないから品物の方でまけてやる。」

と云ふので白い紙が半分ばかりも附いてる端の方の切手を賣つてやつた所が、田舎者は

「そだから、何でもねぎらねば、損なかつた」

謎々

(一) 蚊の最期は(みのおはり、美濃尾張)

(二) 東洋の聖人を御飯道具とは(釋子)

(三) 雨夜の三味線を文房具二とは(インキトペン、陰)

氣でべんく)

(四) 武士の喧嘩を郵便に使ふものとは(切手四枚、斬つて仕舞ひ)

この次の考へもの

(一) きつね上下をぬいで、お婆れば、むぢなも上下をぬぐ。(植物の名二つ)

無理のことはするな

羽山好作

昔海邊の澤に、長らく住んで居る龜がありまして其の友達に二羽の鶴がありました。或る時龜は海岸の岩の上で、海の景色を見物していましたとき、ちよと、日頃こんいの鶴が遊びに来ました。すると龜は、鶴に向て云ふことに、君等は翼があるから、毎日高く高く空中を飛びあいて、日本中の廣い都をも、一日に